

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

川崎医療福祉学会 第8回 研究集会プログラム

平成7年6月7日

1. 医療人類学, 死学 (サナトロジー) 教育の必要性和その将来性について
川崎医療福祉大学 医療福祉学科 近藤 功行
2. 形態の見かた
川崎医療福祉大学 感覚矯正学科 松本 真
3. 投薬時のインフォームドコンセントについて
川崎医療福祉大学 保健看護学科 斎藤 泰一 山口三重子 小野 和美
4. 地域における老人の骨折経験の実態と骨密度
川崎医療福祉大学 医療福祉学科 宮原 伸二
5. 腰痛予防のためのアクアエクササイズ
川崎医療福祉大学 健康体育学科 *小野寺 昇 宮地 元彦 矢野 博己 木村 一彦
6. 運動刺激が血管新生に及ぼす影響 (血管内皮細胞の運動能に力学的刺激が及ぼす影響)
川崎医療福祉大学 健康体育学科 *宮地 元彦 小野寺 昇
*印: 発表者

医療人類学, 死学 (サナトロジー) 教育の必要性和その将来性について

基礎医学を進める上で, Human Ecology (人類生態学) の視点は重要である。環境生態系を見据えた中で, ヒトと文化の関わりを現地調査から押さえることにある。また, 地域に関わる上で, 対象地域の社会・文化的背景, 人々の生

医療福祉学科 近藤 功行
業などを網羅した調査研究が必要である。文化人類学 (医療人類学は文化人類学の下位体系に組み込まれる) の参与観察など研究手法の重要性, 死学 (サナトロジー) の展望について, 今回は私見を述べてみた。

形態の見かた

ヒトの形態を理解するための方法論について, 上肢の正中動脈を例にあげて論じた。形態の意義を論じる観点としては, 現象論, 要因論, 機械論, 過程論, 機能論などがあげられる。正中動脈はこれらの総合により, 霊長類の祖先段階

感覚矯正学科 松本 真
では成体において手に向かう主幹である。真猿類においては発生過程で消失するようになるが, ヒトにおいても8%ほどの頻度で成体まで残存する, という全体像を描くことができた。

投薬時のインフォームド・コンセント (IC) について

保健看護学科 斎藤 泰一 山口三重子 小野 和美
薬物の副作用発現は確率の問題で, 予知困難なことが多い。これを患者に理解させるのは難

しい。効果と副作用のバランスで患者が自分で判断して適用を決めることになる。それには単

なる説明ではなく、情報はすべて公開し、患者も対話の形で参加しなくてはならない。医学知識や確率の意味についても十分な教育が必要で

ある。Consent とは拒絶できることも含んだ許諾であり、上位者が使用する言葉で、子供には assent が使用される。

地域における老人の骨折経験の実態と骨密度

医療福祉学科 宮原 伸二

70歳以上の地域住民を対象に骨折実態調査を行った。60歳以降の骨折経験は男13.2%、女16.0%であった。骨折部位は、男では鎖骨・肋骨・脊椎・大腿部、女では手関節、鎖骨・肋骨・大腿部の順に多かった。大腿部骨折の予後は、歩

行障害50.0%、寝たきり状態18.8%である。低骨密度（90%未満）の出現頻度は骨折経験がある人が有意に高かった。骨折の原因は骨密度のほか、筋力、視力、転倒、痴呆など多岐にわたり、対策のみきわめが大切である。

腰痛予防のためのアクアエクササイズ

健康体育学科 小野寺 昇 宮地 元彦 矢野 博己 木村 一彦

水の物理的特性である浮力を利用し、下肢及び躯幹にかかる負荷を軽減することにより陸上では不可能である運動を実施することができる。腰痛は、腹・背筋のバランスが崩れた時、どちらにか大きな負荷がかかった時に発生する。ア

クアエクササイズは、躯幹の筋力を整えるために、それぞれの部位毎に考案されたプログラムを連続的に実施し、負荷強度を調整しながら、どの年代の対象にも適切と考えられる環境作りが可能である。

運動刺激が血管新生に及ぼす影響（血管内皮細胞の運動能に力学的刺激が及ぼす影響）

健康体育学科 宮地 元彦 小野寺 昇

運動が血管新生を誘発する機序を細胞生物学的方法を用いて検討した。血管内皮細胞をシリコン膜上に接着培養し、そのシリコンを繰り返し伸展させることで内皮細胞に直接力学的刺激を加えた。wound assay 法で細胞運動性を検討

し、力学的刺激により内皮細胞の運動が活性化されることが明らかとなった。さらに、アクチン重合阻害剤により内皮細胞の運動性が抑制されたので、アクチンが細胞の運動に寄与していることが示唆された。